

事務所引越しました

試験湛水が始まり、湛水時及び今後の運用時の管理を日常的に行うため、ダム完成後に管理事務所となる建物に移転しました。事務所内にはダム管理用制御処理設備や監視設備等があり、当建物の中からダムのゲート操作等を行います。現在、新事務所周辺の工事を行っていることから、ダム本体及び新事務所へアクセスできませんが、屋上からはダム堤体を望むことができ、ダムカード風に写真を撮ることができますので、アクセスできるようになりましたら、ぜひ新事務所へお越しください。



木谷原橋撤去しました

木谷原橋はダム湖に沈む鋼橋であり、水質に影響を及ぼす恐れや老朽化も相当進んでいたことから撤去を行いました。この木谷原橋はドイツのハーコート社製で九州鉄道の鉄道橋として明治23年から明治34年にかけて輸入された47橋のうちの1つであり、その後、鉄道車両の大型化に伴い規格外となったため、昭和27年に鉄道橋から道路橋として姿を変え錦町に架橋されたとても珍しい橋梁です。このため、ハーコート社と刻印されている部分を含む撤去した一部を現在管理事務所付近に保管しており、地域の方々と今後の活用方法について検討しているところです。



建設中のダムカードがもらえるのは今だけ。詳細は山口県庁河川課のホームページをご覧ください。



山口県庁河川課のホームページに試験湛水状況が随時アップされますので、ぜひご覧ください。

今日の平瀬ダム
(試験湛水29日目)
令和4年11月10日(木) 午前10時現在

貯水位：標高114.1m
貯水率：4.2%

※随時更新します。

錦川だより

News from Nishiki River

錦川総合開発事務所

2022.11.30
November

第36号



試験湛水開始!



試験湛水

試験湛水は、ダム運用開始前に一時的に満水にした後、常時満水位まで水位低下させる一連の水位変動の中で、ダムの安全性や放流設備等の作動状況、操作の信頼性及び貯水池周辺の健全性を確認するものです。（右図）この度ダム本体に係る工事が概ね完了したことから、令和4年10月13日に試験湛水を開始しました。



試験湛水前最後の見学会

試験湛水前の令和4年10月8日と10日に水没移転者を含む地元住民の方々や一般の方々を対象にダム湖に沈む集落跡、景勝地である『猿飛の石庭』等へご案内しました。参加された方からは「故郷がダムの底に沈むことが寂しい。」「錦川が増水したというニュースを見るたび、ダムの必要性を感じている。」「水没地に住んでいたが、最後に見に来ることができてすごくよかった。」「移転してから初めて故郷を見に来ることができた。思い出がいっぱいあり、すごく懐かしい。」といったご感想をいただきました。

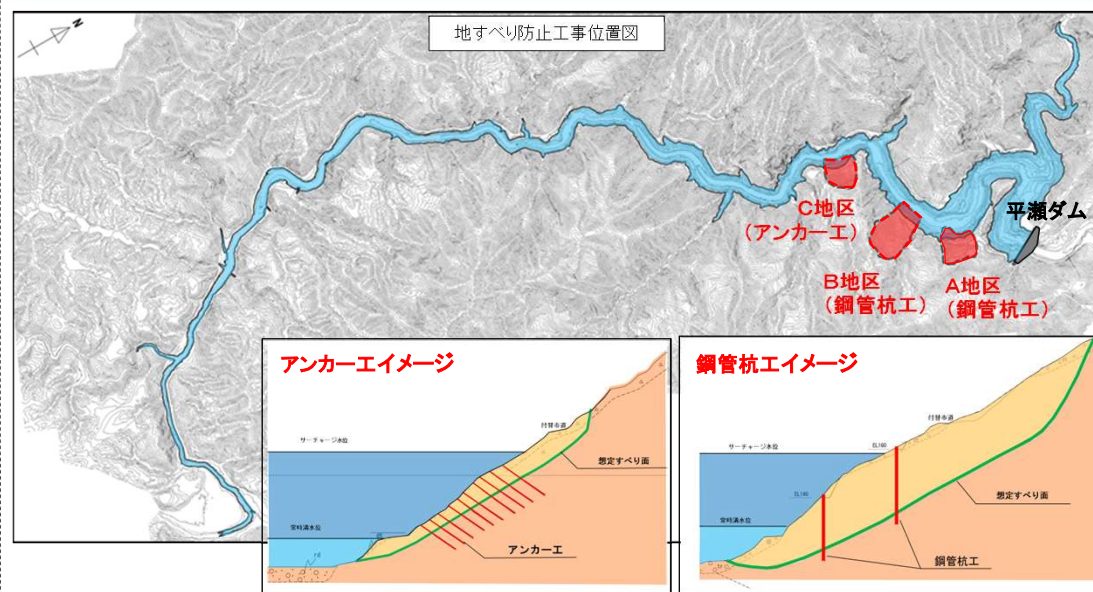


試験湛水中の監視

試験湛水期間中は湛水により堤体や貯水池周辺の斜面等に異常がないか確認するため、毎日計測及び巡視を行います。堤体観測においては、ダムの堤体内に備わる管理用通路に入り、漏水量、揚圧力及び変形量を計測し、堤体等にクラック等の変状がないか巡視、記録を行います。貯水池周辺の斜面監視においては、地形判読により抽出した地すべり地形23ブロックについて、計測器による地すべりの変位及び地下水水位を観測し、滑落等の変状がないか巡視、記録を行います。



地すべり防止工事 完了



施工状況写真



完成写真



湛水に伴い地すべりが発生する恐れのある3地区について、地すべり防止工事が完了しました。A、B地区については、抑止工として鋼管杭を286本（直径700mm～900mm、杭厚13mm～51mm、杭長10.5m～37.5m）建て込みました。C地区については、同じく抑止工としてアンカー419本（直径38.1mm、アンカー長15.7m～40.7m）を挿入しました。